

2歳まで様子見でいいのか

質問

息子が1歳児検診で「両側停留精巣」と診断されました。今は数カ月で1回通院して様子を見ています。先生には、2歳くらいまで様子を見ようと言われたのですが、それでいいのでしょうか。2歳になっても治っていない場合はどのような治療をするのでしょうか。

る状態(停留精巣)が続けば、精巣の細胞に障害が起ころうとします。

まず大事なことは、停留精巣が移動精巣(遊走精巣)かを区別することです。移動精巣とは、鼠径部といわれる下腹部から陰嚢までを移動する状態のこと、寒い時などは容易に陰嚢



回答 精巣は胎児期に腹腔内で発生し、鼠径管というトンネル

状の構造を通して、通常では生まれた時、既に陰嚢内に下降しています。両側停留精巣は、精巣の下降が不完全で陰嚢内に収まっていない状態です。

精子の形成にかかわる精巣の細胞は、温度に影響されやすく、陰嚢内は体温より1、2度程度低く保たれています。そのため、精巣が陰嚢内ではなく体内にある

両側停留精巣



高橋 正幸

徳島大学病院泌尿器科

嚢外へ上昇します。逆に入浴中や入浴後など暖かいところでは、陰嚢内に下降していることもしばしばあります。

なぜ区別することが大事かというと、治療方針が全く異なるからです。停留精巣は、手術によって精巣を陰嚢内に固定することが必要です。しかし、移動精巣

診断確定なら手術必要

は正常に発育すると考えられており、基本的に経過観察が勧められています。ただ、移動精巣もまれに、途中で陰嚢の外に上昇して停留精巣になる場合があるため、普段は家での入浴中などに精巣位置を確認するとともに、年に1回程度、病院で精巣位置を確認してもらうことが勧められます。

移動精巣ではなく停留精巣と診断された場合、手術が必要になります。手術の時期については、本来であれば、停留精巣固定術を受けた年齢と将来の精液の状態や妊娠にいたる割合を関連つけて決定されるべきですが、小さいころに手術を受けた患者が、20年以上にわたって同じ病院を受診し続けるとは限らないので、これに関しては十分な報告がありません。

多くの報告は、精巣固定術を行った年齢と、その時に採取した精巣組織がどの程度障害を受けているかというデータを基にして、適切な手術の時期を述べています。

報告によりばらつきがありますが、1歳半を越える、まれに将来精子をつくる精巣細胞が消失する場合もあり、それまでに手術をするべきだという報告があ

「質問のお子さんは、既に1歳ですので、停留精巣の診断が確定しているならば、手術が望ましいと考えます。(徳島市蔵本町)」

健康

質問募集

読者の健康に関する悩みに、県内の専門医が答えします。病気、体調不良などの症状を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を明記し、〒770-08572 徳島新聞社文化部「健康相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。